

# みなと元町 TOWN NEWS



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

## ‘車’中心から‘人’中心のまちづくりへ

建設局長 三島 功裕



三島 功裕

みなと元町タウン協議会の皆様方におかれましては、日頃より、本市行政の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

近年、人口減少社会において、求められる都市像やニーズの変化を受け、‘車’中心から‘人’中心の快適な都市空間の創出が重要視されており、全国的に歩道の拡幅等の道路空間再編や、沿道地域活動と併せた道路空間の利活用が行われています。

建設局においては、市民ニーズや地域課題に対応するために、道路の利用環境や周辺の土地利用状況を十分に分析した上で、道路や公園を都市の貴重な公共空間としてとらえ、本来の交通機能に加え、「いい」や「にぎわい」を創出し、都市機能の向上を図ることで、道路から「くらしの豊かさ」を感じられる公共空間の整備を目指し取り組んでいるところです。

その中で、元町駅からウォーターフロントへ誘う鯉川筋の再整備を令和2年度に予定しています。「HITODE交差点」から栄町通りまでの西側歩道を広げ、歩行者が快適に通行できるようにするとともに、鯉川筋の東西の横断歩道の距離も短くなるため、南北だけでなく東西の回遊性向上にも繋がると考えています。元町商店街や南京町などの沿道地域の特色を際立たせ、それぞれが出会う場となるような歩道舗装デザインとします。あわせて、ベンチ

を設置することで、楽しくまちを回遊でき、気軽に憩うことができる道路空間に整備します。このような再整備に着手できるのは、日ごろのみなと元町タウン協議会の皆様のご理解とご協力があるからだ実感しています。

また、駐輪対策につきましては、これまで放置自転車の撤去、元町駅周辺の市営駐輪場増設や、道路占用方式の民間駐輪場整備などの取り組みを実施してきました。

現在、本市において「神戸市自転車活用推進計画」の策定を進めており、この計画においても3つの基本方針のうちの一つである「自転車で安全・快適に走る」の中に、駐輪対策の推進を掲げています。

今後の主な対策として、まず1つ目に駐輪場を増やしていく予定にしています。元町駅を中心として、駅周辺において不足している駐輪場を順次増設すべく、現在検討を進めています。

2つ目に、「放置禁止区域」の区域変更を予定しています。現在、元町通1丁目～3丁目の一部において設定している放置禁止区域をさらに拡大する方向で検討を進めています。新たに設定されるエリアにおいては、マナー啓発や即時撤去により、放置自転車の削減につなげていきたいと考えています。

一方で、駐輪場の増設や放置禁止区域拡大といった取り組みを進めていくにあたっては、地域や沿道の方々のご協力が不可欠です。また、放置自転車の問題は、自転車を利用される方一人ひとりのマナー向上が大切です。今後も粘り強く啓発活動を続けてまいります。貴協議会のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、みなと元町タウン協議会の皆様には、今後とも「神戸の顔」である元町地域のさらなる発展と魅力発信にご尽力いただき、また道路行政へのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様の一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。



### 西日本旅客鉄道(株) 元町駅



元町駅 駅長 柏原 正典

弊社は昭和六年四月一日にJNRから、西日本旅客鉄道株式会社に発足しました。当元町駅の正式名称は、「西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 神戸支社 三ノ宮駅管区 元町駅」となります。

この元町駅は、昭和九年に初代駅長が誕生し、私で十七代目となります。現在の元町駅は、ご乗車されるお客様が一日4万人を超えており、西日本の駅千七百七十四駅中、第十八位で東海道本線の名だたる駅として、地域の皆様のご活躍を見守らせて頂いております。

駅係員は、駅長を含め十八名、一日の出番者は七名、内四名が二交代制の泊り業務を行い、皆様も御存知の通り、元町駅には新快速電車が止まりませんが、ホームは上下二本で線路は四本あります。

下りの神戸・姫路方面へは、一番線が新快速の通過線で二番線は快速・普通線の発着、上りの三ノ宮・大阪方面の三番線に快速・普通電車が発着し、四番線は新快速が通過する区分としており、平日一日下り二百九本・上り二百四本の電車が発着しております。駅の、バリアフリー対応として西口に上下エレベーターを設け、案内をさせて頂いておりますが、昨今、「東口にもエレベーター設置を」とご要望を



阪神電車線と共存風景南側から撮影

賜っております。元町駅の南側には、元町連合商店街や南京町があり観光スポットとして多くの方々で散策にこられ、地域の活性化・発展に寄与されています。また、土休日にはウインズの開館で賑わい、北側には、兵庫県庁・兵庫警察等があり官公庁街としての環境が整えられています。

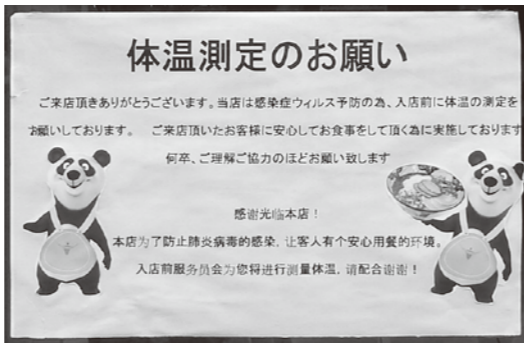
IC導入に伴い切符の購入・精算が機器類での対応となり、簡便便利なネット予約が進化し、切符を買うために駅に行く必要がないとして、ご利用のお客様から好評は頂いておりますが、駅係員もご対応をさせて頂きましますので、お気軽にお声がけをお待ち申し上げます。

引き続きJR元町駅をよろしくお願ひ申し上げます。

### 元町商店街にも休業の波

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月8日(水)神戸市は、対応方針として、生活の維持に必要な場合を除き「みだりに家から外出しない」「不要不急の会合は行わない」「3つの蜜(密閉・密集・密接)の懸念がある集いやイベントへ参加しない」方針を打ち出し、広く市民にも呼びかけている。4月15日(水)には、兵庫県に対して、私権制限を含む緊急事態宣言が発令され、遊興施設業種などを対象に休業要請も始まった。

そうした中、300店舗が軒をつらねる元町商店街では4月14日、各店舗の状況を調査した。それによると、当面休業⇒32店舗、5月6日まで休業⇒16店舗、4月15日まで休業⇒2店舗、4月14日まで休業⇒1店舗、5月6日まで休業⇒1店舗で、全体の2割強を占める店舗が、何らかの対策を講じていることが明らかになった。



「体温測定をお願い」

### 編集後記

ハッサム邸、ハンター邸など、地域をそっくり保存する事業に取り組み、北野を神戸の代表的な観光地に育てられた坂本勝比古さんが亡くなった。神戸外国人居留地研究会の例会に参加していたころは、坂本さんの姿を遠目に拝見していたが、言葉交わす機会はない。追悼の新聞記事で、「大井牛肉店」の明治村移転も坂本さんのお力と教えられ、20年余も前、そこに移設された昔の店を、看板メニューのすき焼きを賞味した日のことを思い出す。1年近く前になろうか、その坂本さんから丁寧なお手紙を添えて、自らまとめられた北野を案内する美麗な本を贈って頂いた。北野の雰囲気そのまますべてを、大井牛肉店に感じしながら、大井牛肉店の香りを懐かしんでいた時間。遅刻したお礼とともに、「冥福をお祈りします」。



新型コロナウイルス感染症への対策として、クリーン作戦は中止となりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施いたします。お気軽にご参加ください。

### 神戸元町商店街 楽市楽座 5月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

- 4月30日(木)～5月5日(火) 【開催延期】甲友会第7回「旅の写真と洋画」
- 5月7日(木)～5月12日(火) 【開催中止】元町の芸術家たち展
- 5月14日(木)～5月19日(火) 【開催中止】第34回 彩悠会展
- 5月21日(木)～5月26日(火) 【開催中止】第37回 木彩会 洋画作品展
- 5月28日(木)～6月2日(火) 【開催中止】橋水会 水彩風景画展



# 海という名の本屋が消えた (78)

平野義昌

## ブラジル移民(3)

〈一九三〇年三月八日。／神戸港は雨である。細々とけぶる春雨である。海は灰色に霞み、街も朝から夕暮れどきのように暗い。／三ノ宮駅から山ノ手に向う赤土の坂道はどろどろのぬかるみ(原文傍点)である。この道を朝早くから幾台となく自動車が駆け上って行く。それは殆んど絶え間もなく後から後からと続く行列である。この道が丘につき当って行き詰まったところに黄色い無装飾の大きなビルディングが建っている。後に赤松の丘を負い、右手は贅沢な尖塔をもったトア・ホテルに続き、左は黒く汚い細民街に連なるこの丘の上の是が「国立海外移民収容所」である。〉<sup>註1</sup>

石川達三(補註)は小説『蒼氓』をこう始めた。同年石川は移民会社の輸送助監督としてブラジル移民たちと収容所生活・航海を共にした。半年後帰国、その体験を雑誌に発表し、小説化したのは5年後のこと。文中の坂道は「鯉川筋」、「三ノ宮駅」は現在の「元町駅」の場所にあった「旧三ノ宮駅」である。

この年ロンドン軍縮会議、日本とアメリカ・イギリスの軍艦比率交渉が難航していた。また1928(昭和3)年の張作霖爆殺事件以降、日中関係は戦争寸前だった(翌年満洲事変、15年に及ぶ戦争が始まる)。国内経済では、29(昭和4)年の世界大恐慌の影響を受け失業者が増大していた。東北地方は凶作のため農家女子の身売りが多発する事態だった。当時の新聞は工場の人員削減と対抗する労働争議の記事が目立つ。

移民希望者には新天地での一攫千金を夢見た人もいただろう。しかし、石川が目にしたのは、食い詰めて故郷を捨て、藁をもすがる思いで渡航を決断した人々である。〈……その故郷には、もはや人手に売って金に代えた幾段幾畝(いくたんいくせ)の田圃と、先祖伝来の家と家風とがある。だが、今は彼らの心を惹き止むべき何らの財産も残されていない。父が、祖父が、曾祖父が、その精根を掘り埋めたであろう田圃と――そして彼らはその畑の片隅に石基となっている――この土地すらも他人に渡して、僅々幾個の荷物たちと共に神戸へやって来た。〉<sup>註2</sup>

石川は、文化豊かな国の民がなぜ海外移住しなければならないのか、率直に述べる。〈本当のことを言えば、うそもかくしもない。彼らこそは、国家が養い切れずに、仕方なしに外国へ奉公にやるものであって、ここにこそ農村問題そのものの現実的一面もあり社会組織改変の痛切なる要求もある筈なんだ。(中略)「海外発展の先駆者!」／これはしかし相応しき名でもあった。政府と移民会社とが鐘太鼓で生活に困っている人々を駆り集めて説くところは、ブラジルの長所ばかり日本の短所ばかりだ。可哀想に、根が正直なお百姓たちは、向うの長所とこっちの長所だけを合計して、安直に、理想の天国を作ってしまった。そして早速に行こうというのだ。大胆不敵、実に勇者という名にも相応しかろう。夢を現実と見誤ってしまったのだ。そして向うに上陸するまでその夢を見続けるのだ。〉<sup>註2</sup>

一時帰国した移住者がブラジル事情を説明する。現地は土地肥沃、気候良好、低物価、地上の楽園と思われているが、コーヒー農場の労働は日本に劣らず苦しい。隣の集落まで遠い、ラジオ・新聞・雑誌・郵

便配達なし、働く・食う・寝るだけの生活。猛獣、毒蛇、ワニはいるが、医者はいない。マラリアの脅威もある。多くが帰国しないのは、日本には文明の脅威があるからだ。自分は数ヶ月過ごただけで、政財界の疑獄、労働運動、軍縮会議、毎日事件を知らされる。「身も心もさむぎむとする様に思い、母国の終焉を見るよう」(註1)で悲しい。ブラジルは暢気なだけいい、と。思考停止、現実逃避、ということか。

収容所の話に戻る。移民希望者たちは受付をすませ、身体検査を受ける。「ブラジル入国の移民の第一条件は(一、トラホーム患者ニ非ザルコト)である」(註1)。感染症への規制は昔から厳しい。故郷で検査が不合格でも神戸まで来ている家族がいるかもしれない、まさに一縷の望みに賭けた人たちがいる。

28(昭和3)年12月の渡航時、ブラジル上陸目前でトラホームのため9家族40数人が送還された。子どもなら合格させ船内で治療、ということもあったようだ。収容所の資料では、開所から36(昭和8)年までの不合格者は3,418人、家族を含め6,930人が渡航を断念した。入所中に病気治療を受けた2万6千人余り。そのうち眼科治療は1万7千人を超え、ほとんどがトラホームである(註3)。

石川は検査で渡航不可を言い渡される家族を目撃する。彼らは戻っても家も田んぼもない。どこにも行くあてはない。〈(不合格者は)妻と五人の子供達を連れて、行李を担い風呂敷包みを提げてぬかるみの坂道を黒い一群の影のように見すばらしくなって下りて行った。煙のような雨が横に吹き流れていた。彼等の後からフランス人の若い娘が赤いスカートを履いて、男と腕を組んで、相合傘で歩いて行った。〉<sup>註1</sup>

身体検査の合格者たちに昼食が出る。〈……まずい御飯だ。何とはなしに四人の食事を思わせる。一つの皿に煮物があつた。大皿に八人前の沢庵がある。八人に一つの飯びつがあり、やかん(原文傍点)がある。それで終りだ。喉を通らないような気がする。しかしお百姓たちには十分に食えるのだ。〉<sup>註2</sup>

食事は国費、移民にとっては「天皇陛下の御飯」(註2)である。石川はありがたがって食べる彼らの善良さに胸を打たれるが、棄民の皮肉か、とも思う。

昼食後、部屋を割り当てられる。一室にベッド12。翌日腸チフス予防注射、隔日に種痘、コレラ予防注射を受け、その間に寄生虫検査がある。〈……ホンコン、シンガポールあたりは危険極(きわま)る港として指定せられてあつた。一九二八年頃に移民船ハワイ丸がホンコン寄港後移民の中にコレラ患者続出し、死亡者が出る度に移民の家族構成は続々として崩れ始め、シンガポールでは入港を禁止され、遂に日本に戻って来た大事件もあつた。〉<sup>註1</sup>

毎朝ブラジル語研修を受け、午後はカトリック神父の説教を聴く(ブラジル国民の大半はカトリック教徒)。教会見学もあり、カトリックのメダル(20銭)を買わされる。メダルがあれば、ブラジル人はカトリックと認め、親しくしてくれ、信用してくれる、らしい。

収容所南側に「渡航用品販売所」がある。〈……それは安物百貨店であり十銭ストアである。移民達は先ず労働服を買った。それから鍋釜、石鹸、洗

濯鹽、ゴム靴、御飯杓子から、亀ノ子タワシに至るまで買い求めて来る。女の簡単な服を注文すると翌日出来る。〉<sup>註1</sup>

販売所は安物・不用品を高価で売りつけることが多々あつた。日伯協会が実情を調査し、移住支度品供給委員会(拓務省、県、市、大阪商船、海外興行会社など関係団体から委員選出)を設置、36(昭和11)年5月移民教養所(32年改称)内に支度品供給場を開設した。委員会が商品を選定、販売員は各メーカーから出張してくる。メーカーは場所代の負担がなく、良心的な品質・価格で販売できた。これにより、悪徳商人は淘汰され、販売所と供給場が共存し、移住者の選択が広がることになった。販売利益は移住者保護、奨励事業に充てられた。<sup>註3</sup>

1週間の収容所生活最後の日、午前九時銅鑼が鳴り、移民たちは講堂に集合。全員に船のベッドの番号札が配られ、船中生活の説明と注意がある。移民会社の監督・助監督、船の事務長が紹介される。最後に収容所長が登場して、祝辞と訓辞を述べる。〈「海外渡航発展移住者諸君、万歳!」／するとそれに釣られて九百余の移民が万歳を唱える。二度、三度くりかえして叫ぶ。それは実に勇ましい万歳であつた。(後略)〉<sup>註1</sup>

移民たちの大きな荷物はトラックで港まで運ばれ、彼らは担げるだけの荷物を持って徒歩で行く。男たちはカーキ色の労働服、多くの人が胸にカトリックのメダルを下げている。女たちは初めて着る洋服、履き慣れない靴といういでたち。顔なじみになった販売所の人たちが笑顔で見送ってくれる。監督が収容所の建物を見上げて言う。〈「こんな大きな収容所を建てなけりやならんと言うのは、やっぱり百姓が困っているからだろうなあ」〉<sup>註1</sup>

註1 石川達三『蒼氓』新潮文庫、1951年(79年46刷)  
 註2 石川達三『最近南米往来記』中公文庫、1981年  
 註3 黒田公男『論集神戸移民収容所』黒田公男(私費)、2001年



補註 石川達三(1905~1985年)は秋田県生まれ、昭和を代表する社会派ベストセラー作家。1975~77年、日本ベンクラブ会長。30年ブラジル渡航体験「最近南米往来記」を雑誌「国民時論」に寄稿。35年小説『蒼氓』(三部作の第1部)を同人雑誌「星座」に発表。同年第1回芥川賞を受賞した。他の候補者は高見順、太宰治、外村繁(とのむら)、衣巻省三(きぬまき)。「蒼氓」は「星座」発表時に一部伏字だったが、「文藝春秋」掲載では大幅に増え、男女の交接場面、天皇と徴兵検査に関する記述が伏字になった。単行本(改造社、同年)で男女場面は削除され、他の伏字もそのまま。出版社の自主規制。同年の美濃部達吉「天皇機関説」政治問題化もあり、表現の自由は縮小した。37(昭和12)年『蒼氓』は日活で映画化(熊谷久虎監督)。38年、石川は南京事件後の中国戦線に従軍取材し、小説「生きてある兵隊」(「中央公論」)を発表。検閲により即日発禁、新聞紙法違反。石川と編集長は禁錮4ヶ月(執行猶予3年)、発行人は罰金100円の有罪判決を受けた。(河原理子「戦争と検閲 石川達三を読み直す」岩波新書、2015年)参照。

# 出来事ファイル (No.20-5)

「見違えるような神戸へ」と題して「街づくりへの積極的な参加を」呼びかけておられる久元市長の一文は、街づくりに取り組む弊協議会への応援歌と受け取り、より広く知っていただきたいと、転載させていただきました。

## 久元市長の神戸を想う



見違えるような神戸へ。  
 これらの神戸はどんな街を目指すべきだろうか。  
 それは、都心の極めて狭いエリアにタワマンが林立し、  
 お店が減り、他の地域からは人口が流出し続けるよ  
 うな街ではないと思えます。都心・ウォーターフロントの  
 賑わいを取り戻し、電車・地下鉄などの公共交通網と  
 有効に活用し、はばり、市内各地域の特性を活かした  
 バランスの取れた街づくりを進めることが大切だとす。  
 自然や歴史遺産に敬意を払い、デザインの視点を  
 もっと取り入れ、空き家・空き地を減らし、夜も安心し  
 歩くことの出来る神戸を目指したいと思います。  
 街づくりへの積極的な参加をお願いします。

神戸市長 久元 喜造

## ■走水神社だるま祭

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言をうけ、兵庫県は4月15日から遊興施設や学校、運動施設、劇場、集会、展示施設、商業施設などに休業を要請するなか、元町商店街でも来街者は激減、各店舗の経営状況はきわめて厳しい状況にある。元町商店街は昭和13年の阪神大水害、平成7年の阪神淡路大震災の難局から復興を成し遂げてきた。今回も、見えない敵に打ち勝つべく、元町商店街の若手商業者らが、少しでも明るい話題を神戸から発信しようと4月16日(木)、5振興組合と組合員に配布するための「だるま祈願」を企画、午前11時から走水神社で児嶋英毅宮司により入魂の祭事を執り行った。

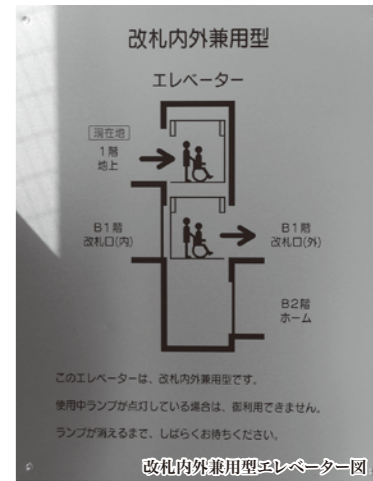
商店街の組合員に配布されるだるまは直径4cm、高さ4.5cm、神戸タータンの敷物を添えて元町商店街組合員店舗に配布するほか、5つの振興組合用には直径3.3cm、高さ4.2cmの大きなだるまを製作、コロナウイルスの早期終息を祈願した。(だるま製作は、東京オリンピックのだるまを製作した福島県所在の白河だるま本舗。だるまの裏側には、七転び八起の必勝祈願に神戸市市外局番も登場)



走水神社;児嶋英毅宮司から餅を受ける元町商店街連合会・田淵秀樹会長

## ■西元町駅エレベーター完成

協議会では、以前から西元町駅にエレベーターの設置をお願いしてきましたが、このほど取り付け工事が完成、足の不自由な方、車椅子、乳母車利用の方々にも不自由なく乗降できるようになりました。元町6丁目中央幹線歩道上エレベーターで地下1階改札口へ。エレベーターを降りチケットを購入、改札口入ると、大阪方面行き・姫路方面行き2台のエレベーターが並び、それぞれ地下2階のプラットフォームへ運んでくれます。(地上とチケット売り場を結ぶエレベーターには、チケット売り場用と大阪方面プラットフォーム行きのドアが、面をかえて用意されています)



## □読者プレゼント

企画展「いきもの みつけた」博物館で収蔵品を整理していたら、いたるところから「いきもの」が見つかりました。身近ないきものから伝説上のいきものまで、どんないきものに会えるか……いきものにあつてみたい方は、住所、氏名、年齢を書いて編集部へハガキでどうぞ。先着順で、ペア招待券をお送りします。期間:5月30日(土)~6月28日(日)会場:明石市立文化博物館



色絵陶器仁清大張子形香合 時節柄、変更・中止の場合もありますのでご承知願います